

令和8年度 練馬区立南が丘小学校(コミュニティスクール) 学校経営計画

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく
目指す学校像(ビジョン)	<p>～50周年の節目を子供・保護者・地域とともにお祝いする一年とする～</p> <p>(1) 子どもたち一人一人の人権や個性が尊重され、大切にされる学校(人権尊重教育の推進) 子供に知徳体の調和のとれた人格形成を図るとともに、あらゆる偏見や差別をなくし、いじめのない環境をつくる。子供たち自身に「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」ができるような人権感覚を身に付ける教育実践を行う。</p> <p>(2) 楽しく学び、健やかな体と確かな学力が身に付く学校(授業改善の推進) 教師は常に研修に努め自らの授業改善を図り、どの子にも確かな学力を定着させるために授業力の向上を図る。各教科の基礎基本の確実な定着及び学習指導要領の趣旨理解を図り、指導計画・学習指導案(週案)に基づく計画的な指導を行う。</p> <p>(3) 安全と健康を大切にす学校 ・教職員が服務事故を起こさず、信頼される教師集団を構築する。児童同士が心を通い合わせる学級をつくり、いじめや不登校、問題行動の未然防止と早期発見・対応・根絶を図る。 ・食物アレルギーの共通理解を徹底し、信頼される学校給食の実施並びに事故の防止を図る。</p>
本校の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者の関わりのある活動が多く、教職員の地域との円滑な連携・貢献が課題である。コミュニティスクールとして、学校支援地域本部との円滑な連携を進めながら学校を運営していく。 ・本校が初任校・初異動2校目である若手教員が多い。日常的なOJTを中心に指導力の育成、管理職候補者の育成に努める。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	年度末評価
学力向上	①基礎的・基本的事項並びに思考・判断と体験的活動を重視した指導を充実させ、学習内容の確実な習得と活用を図る。 ②練馬区アクションプランを基本として、令和8・9年度「練馬区立学校教育研究推進校」としてICT友好的な利活用の研究をすすめていく。	①主体性と思考の深まりを重視した学習指導を推進し、児童の学びに向かう力の育成を図る。	①研究の副主題を「ICTの効果的な活用による学びの往還を通して」として取り組み、主体的で対話的な深い学びを促進し児童の学び合いを促進していく。 ①研究の講師に専門の講師と練馬区教育委員会指導主事をお招きし、ICTの利活用について研究成果を発信していく。	
		②児童のICT活用力を高めるとともに、教職員のICT機器活用力も同時に高め、授業改善と働き方改革を進めていく。	②練馬区の教育研究校としてICT機器の利活用の研究に取り組み、協働的な学習を促進する。教育研究校として専門の講師を招聘し、練馬区全体に発信していく。 ②会議を精選しペーパーレスを進めていき、教職員のサービス残業を極力減らしていく。	
健全育成	①児童の基本的な生活習慣の確立並びにいじめや不登校の防止を重点に置いた健全育成に努める。 ②練馬区アクションプランに基づき、特別支援教育を充実させ、配慮を要する児童への校内体制を整え教育的ニーズにあった教育を充実させる。	①児童の安全を優先に考え、安全点検、見回り活動、危機回避行動訓練を実施するとともにいじめや不登校の未然防止に努める。	①毎週金曜日の生活指導朝会並びに毎月の特別支援教育校内委員会で情報共有を行い、全教職員で児童の健全育成並びに個のニーズに応じた指導を行う。 ①教職員、地域安全ボランティアによる登下校時の安全見守りとパトロールを実施する。 ①「いじめの基本的認識」を教職員・保護者・児童で徹底するとともに、いじめは絶対に許さないことを全職員で徹底指導する。	
		②通級指導教員やスクールカウンセラー、特別支援教室専門員、通級指導教室等を活用した校内における特別支援教育の充実を目指す。	②指導上配慮を必要とする子供への対応として、特別支援教育校内委員会を毎月開催し、個別指導、カウンセリングのための校内体制をつくる。 ②配置のカウンセラーと教員が十分連携し、担任並びに管理職や特別支援コーディネーター、養護教諭が情報を共有し状況の改善を図っていくとともに毎月校内委員会を開き、課題と対策を協議する。 ②校内通級指導や校内別室指導室(がお小ルーム)を適切に活用していく。	
健康・体力づくり	①東京都教育委員会「笑顔と学びのプロジェクト」を活用し、運動や競技種目への意欲を醸成するとともに、運動技能の向上と体力増進に努める。 ②体育の授業改善を進め、体力持久力の向上を図る。	①パラアスリートを講師として招聘する授業を行うとともに、体育授業中の運動量を増やし、運動への意欲を高め、体力や運動能力の向上を図る。	①パラリンピックで扱われた種目(車椅子バスケットボール・ボッチャ・車椅子バドミントン・ブラインドサッカー等)の種目のアスリートを招聘し、種目への関心を高めるとともに障害者理解教育を促進する。また、ICTを活用し「オリンピックレガシー」を推進していく。	
		②体力テストの結果を踏まえ、現状を分析し日常の体育授業の工夫と改善を図る。	②体力テストの結果を重視し、日頃の体育授業の質の向上と授業改善を図る。また、子供自ら進んで体力向上に努める態度を育てるために縄跳び、水泳などでの学習カードを工夫する。また、活動の場の工夫、教師の立ち位置による評価と安全の見とりと確保に努め、ケガの防止にあたる。	
保護者・地域との連携	①保護者と連携し気持ちの良いあいさつの習慣化並びに生活リズムの確立を図る。 ②幼保小の連携や都立特別支援学校との連携による「副籍制度」を積極的に活用していく。 ③練馬区アクションプランに基づき、子供の居場所の充実を図る。	①早寝早起き朝ごはんをモットーに生活リズムの習慣化と食育に取り組む。 ②近隣の保育園の園児との交流を進めるとともに、副籍の直接交流を積極的に進め障害者理解教育を促進する。	①学校の基本理念に「あいさつあふれる、笑顔かがやく学校」を掲げ、日常のあいさつに重点を置き、区のあいさつ運動のほか学校独自に各学期に代表委員会主催による「あいさつ週間」を取り入れて習慣化・活性化をはかる。 ①日頃からゲームやテレビ・スマホ視聴等の時間短縮を促すことで、家庭での手伝いや家族との会話の時間を増やすように働きかけていく。特に「家族会議」を推奨していく。 ②近隣の5つの保育園と交流を図り、年長園児の小学校への円滑な接続を図っていく。	
		③家庭科室を「学童クラブ」のための第二保育室として貸与し、待機児童の解消に寄与する。	③日常の教育活動を行う点では、特別教室を日常的に貸与することは支障があるが、練馬区の施策に理解を示し積極的に関与していくようにする。練りっこクラブの担当と連携し、円滑な居場所が運営できるように協力していく。	
特色ある教育活動	①練馬区アクションプランに基づき、コミュニティスクールとして地域と連携した学校づくりを推進する。 ②うるおいのある学校生活のため、児童の縦割り活動「けやき班」を充実させる。	①コミュニティスクールとして、より地域と連携した学校となるよう成果と課題を整理する。	①15名の学校運営協議員と協力し、コミュニティスクールとしての運営を充実させていく。 ①50周年行事の充実のため、「50周年実行委員会」のメンバーと緊密に連携していく。 ①授業や行事の参観、給食の試食を行い、成果や課題を整理しより良いものへと改善を図っていく。	
		②特別活動として「けやき班活動」を位置付け、朝の時間や授業時間を活用して充実を図る。	②1年生から6年生までを縦割りに編成し、学年の枠を超えた小集団活動を行う。 ②児童の自主性を促進し、高学年のリーダーシップにより活動を工夫するとともに安全に活動できるよう適宜指導していく。	